

2024 年度九州事務局事業報告書

— 出所者等に対する求職と職場定着の支援 —

(一社) ヒューマンハーバーそんとく塾

1. 職親プロジェクトへの参加企業数増加に向けた取り組みと参加希望企業の入会支援

- (1) 時期：通年
- (2) 場所：(一社)ヒューマンハーバーそんとく塾（福岡県福岡市）及び各企業・各支部
- (3) 対象：福岡矯正管区内職親企業
- (4) 内容：職親プロジェクト新規参加企業獲得に向けた活動及び入会支援
 - a. 職親プロジェクト説明会の開催（長崎2回 宮崎3回）

【実績】 福岡県9回（新登録企業8社）

沖縄県4回（新登録企業2社）

長崎県2回（新登録企業1社）

宮崎県1回（新登録企業1社）

鹿児島1回（新登録企業1社）

佐賀県1回（新登録企業1社）

長崎花き振興会 職親説明 5社

長崎刑務所主催スタディーツアー10社参加10月16日

長崎保護観察所主催 職親説明20社参加10月17日

- b. 入会手続き業務(随時) 18社

【実績】 13社対応

- c. 入会後のフォロー(随時) 15社

【実績】 21社 4施設

対象者対応相談15社 教育支援相談3社 入会手続き関係3社

法務省関係施設等 4施設

- d. 入会説明用資料作成 200部作成

【実績】 入会ガイダンス・申込書200部作成配布

- e. 職親参加希望企業のための現職親企業職場見学会及び座談会（熊本2回 沖縄2回）

【実績】 見学会2回 (一社)アウトリーチプロジェクト(熊本県)

座談会3回 沖縄県2回 九州全県2024.5.20(75社)

【考察と今後の対応】

職親参加企業の拡大と参加企業数増を図るため、説明会を実施したり各種団体、矯正施設、コレワーク九州とも共同で説明会を実施したりしてきたが、九州全体で81社と目標を達成できなかった。趣旨に賛同する企業は多いが、出所者・出院者への抵抗感が強く雇用はできないという意見が多かった。九州の職親企業では多くの出所者が再犯せず社会復帰を果たすためしっかりと就労をしているため、その実態を公表していく必要がある。しかし一方で、被害者感情や弁済の課題があり、公表していくことの難しさもあるため、行政機関と連携して取り組んでいく必要がある。

2. 職親企業に対する求人支援

- (1) 時期：通年
- (2) 場所：(一社)ヒューマンハーバーそんとく塾（福岡県福岡市）
- (3) 対象： 職親企業（中国四国・九州沖縄エリア）
- (4) 内容：職親プロジェクトでの求人票作成の支援・面接対応支援
 - a. 職親企業へのアンケートによるニーズ調査（職親連絡会議開催時に実施）

【実績】 意見要望聞き取りを4回実施
第1回 2024.5.20（75社） 第2回 2024.10.2（72社）
第3回 2025.1.14（69社）
2024.11.8 メタバース仕事フォーラム沖縄実施後
 - b. 求人募集から採用までのポイントについての相談支援（随時）

【実績】 採用の流れの資料を作成し九州連絡会議にて説明配布
 - c. 動画配布（随時）

【実績】 YouTubeにて職業講話を限定公開
 - d. 求人票作成支援（随時）

【実績】 8企業 5ハローワーク（福岡 熊本 佐賀 長崎 沖縄）
 - e. 採用面接対応支援（随時）

【実績】 4社
ニューフラワー（株）ワイズ（有）丸福水産（株）環境開発
 - f. 職親対象者受入れ及び職場定着へのマニュアル作成・説明会（連絡会議時に開催）

【実績】 採用の流れとポイントを作成 連絡会議にて紹介
連絡会議にて教育支援への参加の呼びかけを実施
 - g. 職親企業の紹介 DVD 作成（企業別）

【実績】 YouTube 動画作成（特定公開）で対応した

【考察と今後の対応】

出所者の受け入れについては、職親企業も対応がスムーズになってきているが、少年と女性の受け入れについては、トラブルが多く受け入れ態勢に不備のある企業も多かった。今後は少年と女性に関する受け入れの留意点や配慮事項をまとめ資料として配布するとともに、専門家による研修会の実施を計画していく必要がある。

3. 支部（九州・沖縄拠点内）開設のための計画・伴奏支援・運営支援

- (1) 地域レベルでの職親PJ賛同・参加希望企業の誘致
 - a. 支部を主導する企業の選定
 - b. 職親PJへの興味のある企業の誘致
- (2) 説明会の実施

a. 参加者：企業・矯正管区・機構・メディア・NF

b. 目的：職親PJの周知

c. 内容：①NF～職親PJの歴史・活動等の説明

②矯正管区から協力雇用主制度の説明

(3)準備会合の開催

a. 参加者：企業・矯正管区・機構・メディア・NF

b. 目的：職親PJの更なる理解

c. 内容：①NF～職親PJの具体的な活動と約款・要項の説明

②矯正管区から制度等の説明

(4)発足式の開催

a. 参加者：企業・矯正管区・機構・メディア・NF

b. 目的：職親PJの参加表明式典

c. 内容：①職親PJ参加への調印・署名式

②NF執行役員からの挨拶

③職親PJの活動説明

④矯正管区より制度等の説明

【実績】

福岡支部組織体制作りと連絡会議開催支援（3回）

熊本支部組織体制作りと連絡会議開催支援（3回）

沖縄支部組織体制作りと連絡会議支援（4回）

【考察と今後の対応】

既存の支部については、活動が活発化し、企業数、雇用数ともに伸びているが、九州全体としては支部の発足に必要な15社の登録に至らなかった。理由としては、地域の実態として、人手不足ではあるが、地方であるが故に取引先や隣近所との人間関係が密接で、自社で出所者・出院者を雇用しているということに対する周囲の反応や仕事の受注に影響を不安視する声が大きかったことにある。そこで、職親プロジェクトに参加して、社会復帰を果たしているモデルとなる方の協力を得て、メディア戦略や地域理解を深めていく必要がある。

4. 仕事フォーラムの参加サポート

(1) 時期：通年（福岡矯正管内の各矯正施設・拘置所・1回～2回）

(2) 場所：福岡矯正管内の各矯正施設

(3) 対象：職親企業（全国）、福岡矯正管内の矯正施設

(4) 内容：矯正施設が計画した仕事フォーラムへの参加調整及びアフターフォロー

a. 準備支援

- b. 矯正施設との日程及び招聘希望業種・企業の調整業務（随時）
- c. 企業ニーズの集約と矯正施設との調整（随時）
- d. 仕事フォーラムの開催（通年）
- e. 開催後のアフターフォロー（随時）

【実績】 仕事フォーラム開催施設 16施設開催
 仕事フォーラム参加企業 64企業参加
 メタバース仕事フォーラム 8施設（九州管内） 5企業（沖縄県在所）

【考察と今後の対応】

仕事フォーラムに関しては、スムーズな取り組みができた、一方で、矯正施設に直接出向くため、時間とコストがかかってしまい企業によっては「参加したいが時間が取れない」「交通手段がない」などの課題がある。2024年度試験的に実施したメタバースによる仕事フォーラムを活用し、企業と応募者のマッチングを図る機会を多く持てるようにしていく必要がある。

5. モデル矯正施設におけるモデル事業の実施

- (1) 時期：通年
- (2) 場所：佐賀少年刑務所（佐賀県佐賀市）麓刑務所（佐賀県鳥栖市）
福岡刑務所（福岡県宇美町） 福岡少年院（福岡県福岡市）
- (3) 対象：（2）の施設入所者及び就労支援担当者
- (4) 内容：（2）施設におけるモデル事業の構築と実施
 - a. 施設内職業訓練のモデル事業実施に向けた調整会議（各施設3回）
【実績】 福岡少年院 2回実施（職業体験指導）
 長崎刑務所 1回実施（職業体験指導）
 - b. 施設外インターンシップのモデル構築に向けた調整会議（随時）
【実績】 福岡矯正管区と調整を行うも、矯正側の体制が整わず実施には至らなかった。
 - c. 施設内職業訓練及び一般改善指導への参加（1回～12回）
【実績】 福岡少年院 2回実施（職業体験指導）
 - d. 施設外インターンシップ（実施企業3社、各1回）
【実績】 福岡矯正管区と調整を行うも、矯正側の体制が整わず実施には至らなかった。
 - e. 刑務所内及び出所後の職場定着指導（生活改善指導を含む）の継続支援モデル事業の実施（通年）
【実績】 <佐賀少年刑務所職場定着指導> 18回実施
 <福岡刑務所職場定着指導> 2回実施
 <長崎刑務所> 4回実施

<福岡少年院>	3回実施
<帯広刑務所>	1回実施

【考察と今後の対応】

教育支援である「心のスポンジづくりプログラム」については、矯正施設内で受講した受刑者が出所後、雇用先での定着率が高くさらに社会復帰へのつながっている実績がある。しかし、矯正施設内で教育支援を実施する時間の確保などが難しく、「実施したいが内部調整が困難」との意見が矯正施設側から出されている。今後は、福岡矯正管区及びコレワーク九州と連携して、九州管内の全矯正施設で実施されるよう働きかけていく必要がある。

6. 連絡会議の開催

- (1) 時期：2024年6月、10月、2025年2月予定（計3回）
- (2) 場所：電気ビル共創館（福岡県福岡市）予定
- (3) 対象：職親企業（中国四国・九州沖縄エリア）、福岡矯正管区内矯正施設、行政関係者
- (4) 内容：職親プロジェクト連絡会議開催
 - a. 成果報告・課題報告協議
 - b. 事例共有
 - c. 専門家による講習会

【実績】

第1回 2024.5.20（75社） 第2回 2024.10.2（72社） 第3回 2025.1.14（69社）

【考察と今後の対応】

連絡会議は定例として開催はスムーズに実施できた。さらに、企業からの意見や質問も多く内容のある会議となっている。今後は、専門家による研修の実施や出所者の発表の場を多く作り、質の高い会議となるよう工夫していく必要がある。

7. 職親企業に対する専門的サポート

- (1) 時期：通年
- (2) 場所：（一社）ヒューマンハーバーそんとく塾（福岡県福岡市）及び各企業
- (3) 対象：福岡矯正管区内職親企業
- (4) 内容：職親企業に対する専門家による研修会及び個別ケースへの対応
 - a. 職親企業へのアンケートによるニーズ調査（年2回、6月と10月）

【実績】

2024.10.2 第10回職親プロジェクト九州連絡会議にて聞き取り実施
2025.1.14 第11回職親プロジェクト九州連絡会議にて聞き取り実施

b. 弁護士やソーシャルワーカー等専門家との面談調整（随時）

【実績】 2024.10.2 連絡会議にて七燈法律事務所（知名弁護士）より講話を実施

c. 相談支援の調整業務（随時）

【実績】 47件

d. オンライン相談支援の実施（随時）

【実績】 4回（受刑者2 支援者2）

e. 相談企業への訪問聞き取り（随時）

【実績】 8回（受刑者6 企業2）

f. 企業担当者への対象者受入れ対応講習会の開催（随時）

【実績】 2024.10.2 連絡会議にて採用の流れとポイントの資料を使って研修を実施

【考察と今後の対応】

今回、個別の対応等に係る相談研修が増加した。さらには、出所者や出所者の家族、受刑中の方からの問い合わせなど、職親プロジェクトの活動が周知されてきたことにより、相談・問い合わせがさらに多くなることが予想される。相談内容も複雑なケースもあるため、他団体や専門家との連携を深めていく必要がある。

8. 採用者（出所者・出院者）に対するサポート

(1) 時期：通年

(2) 場所：ヒューマンハーバーそんとく塾（福岡県福岡市）

(3) 対象：職親企業（中国四国・九州沖縄エリア）、出所者（成人：20名、少年：5名）

(4) 内容：採用者（出所者・出院者）に対する職場定着支援及び生活改善支援

a. 専門家との面談（随時）

b. 心のスポンジプログラムの実施（一人24コマ／企業依頼による オンライン受講も可）

【実績】 40回開催 参加者 (株)西日本光創 5名

(株)ヒューマンハーバー 3名

(株)ドリームジャパン北海道 4名

(株)ワイズ 2名

(株)アライブオン 1名

c. 交流会の実施（1回）

【実績】 2025.1.14 第11回職親プロジェクト九州連絡会議にて対象者発表2名

d. オンライン相談支援体制の実施（随時）

【実績】 受刑者2名 企業4社

e. 資格取得支援(随時)

【実績】 本部事務局と連携し、5名資格取得
病院清掃受託責任者 2名
普通自動車免許3名

【考察と今後の対応】

教育支援に関しては、受講生が企業で活躍するなど大きな成果を上げることができている。ただ、「受講させたいが業務が多忙で人手が足りないため受講させられない」との意見も多いため、現在の開講時間を変更して、多くの出所者・出院者が受講できるように体制を整えていく必要がある。